

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立中正小学校

<p style="text-align: center;"><b>教育目標(めざす児童生徒像)</b></p> <p>夢をもち かしこく やさしく 元気な子をそだてる</p> <p>目指す子ども像 夢や向上心をもち、伸びようとする子 確かな学力を身につける子 たがいに認め合い、励まし合う子 心も体も元気な子</p> <p style="text-align: right;">3つの「つ」を実行できる子 (あいさつ・たいせつ・あしまつ)</p>	<p style="text-align: center;"><b>今年度の指導の重点</b></p> <p>(1)学力の充実を図る。 ・授業力の向上・学力を把握し個別指導の充実・基礎基本の定着・コミュニケーション力の向上・学習意欲の向上・学習規律の定着 ・読書力を高める・家庭学習の充実</p> <p>(2)落ち着いたくらし ・規範意識の向上</p> <p>(3)楽しい・仲のよい学校づくり ・生活理解・集団意識の取組の充実</p>
--	---

<p><b>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</b></p>	
<p><b>【学力状況調査の結果】</b></p> <p><b>全国</b> 国語・算数のA問題においては、無回答率が大変低いが、B問題では設問によって無回答率が高いものもあった。国語では、A・Bともに県平均を下回っている。その中で、「話す・聞く能力」はよい結果が出ているが、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が低い。 (故事成語の使い方として適切なものを選択(五十歩百歩)(百聞は一見にしかず)の正答率が特に低かった。) (関連づけてまとめを書く記述式では、正答率は全国を大きく上回るが、5割を下回っている。) 算数では、A・Bともに県平均を上回っている。Aは全国平均も上回っている。領域別ではAでは、「数量関係」、Bでは、「図形」が時に高い。「量と測定」がともに低い。(平行四辺形の特徴について、全国平均よりもかなり低かった。) 算数Bでは、記述式の回答に課題が見られるが、全国平均を上回っている。</p> <p><b>県</b> 国語は、全体を通して正答率が低く、県平均に達していない。特に活用問題の記述式が低い。全体的に記述式の正答率が低い。 国語では、「読むこと」「読む能力」において正答率が低い。 算数では、全体的に県平均を上回っているが、割合のグラフについての正答率が低い。 社会・理科は県平均を少し上回っている。</p>	<p><b>【学習状況調査の結果】</b></p> <p><b>全国</b> 生活習慣の面では、継続してよい結果が出ている。「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みが浸透してきている。家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均より高い。 「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が県・全国平均に比べ高い。 「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定評価は県・全国平均に比べ高い。 平日にテレビを2時間以上視聴する児童の割合は県平均より高くなっている。 平日に読書する時間は、本校では、「10分から30分以内」の児童の割合が高い。 授業の中で分らないことがあったら、「その場でたずねる」児童が増えてきている。協同学習のスタイルが浸透し始めている。 「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」と思う児童の割合が県平均を大きく上回った。</p>

<p style="text-align: center;"><b>成果と課題</b></p> <p>学習規律の指導や人間関係づくりへの配慮を通して、落ち着いた学習環境をつくることに取り組んだ結果、真面目に学習に取り組もうとする姿勢が見られる。 算数の「技能」「知識・理解」でよい結果が出ているのは、「どんどんチャレンジ」「放課後学習」等による基礎・基本の定着を目指した取組の成果が表れていると考えられる。 与えられた課題に真面目に取り組んでいる。わからないことをそのままにしないで、その場で先生や友達にだずねてわがうとしている。グループ学習や話し合いを意図的に取り入れてきた成果であると考えられる。 全員が朝食をとり、県と比較してよい結果が出ている。家庭との連携を大切にできてきた成果である。しかし、テレビの視聴時間が長くなっている。 「話す・聞く力」が向上している。学習場面で、ペア・グループを活用し、その中の意見を出し合い考える成果が表れてきている。自尊感情・規範意識が伸びてきている。自分の将来の夢について考えるキャリア教育の取組を継続させていく必要がある。</p>	<p style="text-align: center;"><b>課題に対応した改善方法</b></p> <p>学校生活のあらゆる場面において、言語活動を大切にする。特に学習では、意見や考え方を話したり、ノートに書いたりする指導を意識的に取り入れる。 平素の学習において、活用力や探究心を高めるような課題の内容と提示の仕方を工夫する。 自尊感情を高めるために、児童の活躍の場を設定し、労ったり賞賛したりする場を増やす。また、自分たちの学習や生活を振り返って、目標を持たせたり成長を確かめ合ったりする活動を増やす。 規範意識を高めるために、細やかでかつ毅然とした指導に取り組む。機会をとらえて個人でしっかりと考えさせ、判断と根拠を話すような指導を取り入れる。 基礎・基本の定着を図るために現在行っているチャレンジ学習や補充学習を継続させる。また、B問題や読解力テストなどを課題として与え活用力を高める。 家庭学習で、漢字や計算の反復練習や音読練習を毎日行う。 テレビやゲームの時間を決めるなど家庭とも連携を図り、ノーマディアデー・親子読書の取組を進める。</p>
---	---

<p style="text-align: center;"><b>取組の検証方法及び検証時期</b></p> <p>月に1回管理職が授業を参観し、チェックする。(教師の関わり方、学び合いの様子) 学習の様子をビデオに撮り、振り返りをする。 児童アンケートを年間5回実施し、学習の理解や学習意欲を把握する。 学期ごとの市販テスト(まとめ)により検証する。また、算数については、標準学力検査も実施する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>達成目標(数値目標)</b></p> <p>ペア学習や班学習で全員が自分の意見を言うことができる。 「どんどんチャレンジ」(算数)で、全員が学年末までに該当学年の最終問題を終えることができる。 学年に応じた家庭学習時間設定値を90%以上にし、継続させる。 アンケート結果で、「授業は楽しい」「勉強を頑張っている」が85点以上、「発表をしている」が80点以上になる。 テストにおいて、期待得点または平均点を超える。</p>
--	--